

AP80 PRO-X ユーザーマニュアル

親愛なるお客様、Hidizs AP80 PRO - X ロスレス音楽プレーヤーを購入することを誠にありがとうございました。

AP80 PRO - Xはハイレゾ、ハイレゾワイヤレスやMQAの認証があり、ハンディタイプで、バランスのよいロスレス音楽プレーヤーです。

AP80 PRO-Xには二つのチップが搭載されます。ポディーが精巧で、61x54.5x13.8mmしかありませんが、2.5mmのバランスジャックと3.5mmのシングルジャックを採用しています。一つの高性能FPGAチップが搭載され、ネイティブのハードウェアコーデックDSD64・128・256に対応し、Bluetooth4.2 双方向送信対応し、HiBy UAT (192kHz)、ソニー LDA C (96 kHz)、CSR ART - X、AACやSBCなどのロスレスコーデックに対応します。

便利な方面から言えば、AP80 PRO-Xは歩数計、電子書籍、HiByリンク、MSEBサウンドターニングやリモートコントロールなどのユニークな機能を備えています。

AP80 PRO-XはMQA「オーディオコーデック」に対応し、ハードウェアコーデックMQA 8Xをサポートします。ファイ

ルが大きすぎるという問題を解決し、オリジナルの音質も再現できます。

Hidizs AP80 PRO - Xがお客さんに楽しく使用することを望んでいます。

Hidizs VIPになることを心から歓迎して致します。

メールに書き込むなら、VIPになれます、それでHidizsの最新情報（例えば、新製品リリース、プロモーションやクーポンなどの情報）を即座に知ります。登録成功したら、10%のクーポン券が得られます。

VIPログイン: www.hidizs.net/pages/vip



QRコードを読み取ってVIPになるぞ

より多くの情報を知りたいなら、Hidizsの公式ウェイボー、Facebook、Instagram、Twitter、TikTok、Head-fi フォーラムをフォローしていただきます。

Hidizs公式サイト: www.hidizs.com / www.hidizs.net



Facebook



Twitter



Weibo



TikTok

クイックスタートガイド



オペレーション

1、スクリーンをつける: 動画がロック時にスクリーンを上へスワイプします。

2、戻る: スクリーンを右へスワイプする

備考: 戻る手振りの操作以外に、「歩数計」「システム設定」「端末情報」などのプログラムの左上にクリックしたら、前のメニューに戻ることができます。



3、スクリーンの底から上へスワイプしたら、ショートカット機能を果たします。四つの機能アイコンをつけると金色になりますが、消したら銀色を示します。また、スクリーンの明るさを調整し、ボリューム、再生・一時停止・曲を切り替えることに対応可能です。

一、プレーヤー

1、「プレーヤー」プログラム中に、スクリーン左側から右へスワイプすると、「音楽をスキャン」「MSEB」「イコライザー」「再生設定」などのメニューが表します。「Exit」をクリックしたらメインメニューに戻ります（曲はバックグラウンドで再生し続ける）

2、AP80 PRO-Xそのものはストック機能がありませんが、マイクロSDカード（512Gまでに対応する）を挿入し、曲を蓄えます。

（1）初めてマイクロSDカードを挿入・変更するときに音楽をスキャンする必要があります：「プレーヤー」-「音楽をスキャン」、または「システム設定」-「音楽スキャンモード」-「オート」を順にクリックしてください。



（2）コンピューターのファイルをコピーする必要があるれば、マイクロSDカードをAP80 PRO-Xに挿入したあと、「システム設定」をクリックし、「USBモード」の中から「ストレージ」を選んでください。次に、USBケーブルでAP80 PRO-Xをコンピューターに接続し、コンピューターからSDカードに曲をコピーします。USBケーブルを取り外す前に、コンピューターで「安全に取り外す」という操作を行います。

3、プレイリストの曲を長押ししたら、ショートカット機能を果たしてできます：曲を削除し、プレイリストを追加します。

4、HiByリンク機能：

（1）AP80 PRO-X: Bluetooth設定 - 「Bluetooth」 - 「HiByリンク」

（2）スマホ：Bluetoothをつけたら、HiBy Musicアプリに入り、AP80 PRO-Xを検索してマッチしますなら、スマホで曲を切り替え、選び、音楽リストを管理することができます。

*QRコードを読み取るHiByアプリをダウンロードするか、またはアプリマーケティング、HiBy公式サイト（<http://www.hiby.com>）からダウンロードしてください。



5、MQA

MQA（フルネームはマスター・クオリティー・オーセンティックである。英国のMeridianの共同創設者であるBob Stuartによって開発したオーディオコーディングテクノロジーです。）

（1）Hidizs AP80、AP80 PRO、AP80 PRO-Xは、MQAによって正式に認可および認定されたデバイスです。MQAは「折り畳み」方式を使用して、超高精細を「圧縮」する方法でファイル内のオーディオ信号を「非表示」にします。

本来極大なファイルを数十MB極小の体積に保存しています。「展開」の方式で高精細の内容が再放送でき、折り畳み倍数は2X / 4X / 8X / 16Xが含まれています。非展開方式を使用したら、普通の解像度が再放送されます（パッケージは.flacフォーマットである）。2X展開するなら約24Bit / 96KHzのハイレゾ解像度に当たり、4Xなら24Bit / 192KHzで、8Xなら24Bit / 384KHzで、16Xなら768KHz高解像度になります。

（2）再生リートではオーディオファイルがMQAに対応できるかどうかをはっきり検査できます。

（3）「詳細」をクリックして、ファイルの詳しい情報を確認します。



(2)



(3)

二、出力インターフェース

1、3.5mmヘッドホンポート+ラインアウトポート

①このヘッドホンポートは、3セクションプラグ付きのヘッドホン、4セクションプラグおよび優先制御 / マイク付きのヘッドホンなど、ほとんどのアンバランスヘッドホンに適しています。ワイヤー制御に対応し、前の曲・次の曲・一時停止これらのことをコントロールできます。

②付属ケーブルを配置して、関連デバイスにライン出力を提供することができます。

2、2.5mmバランスヘッドホンポート

全ての2.5mmプラグ付きのバランスヘッドホンに適しています。

* アダプターケーブル通じて、レギュラーイヤホンをバランスポートに接続することをやめてください。

三、Bluetooth

1、AP80 PRO—Xは双方向Bluetooth4.2、CSR APT - X、ソニーLDACなどのロスレス送信プロトコルに対応します。

操作手順：「Bluetooth」 - 「デバイス検索」 - 「接続可能デバイス」 - デバイスと接続します。接続したら、AP80 PRO—X頂部のステータスバーはBluetoothアイコンが表示されています。

2、AP80 PRO—Xは双方向Bluetoothをサポートしており、イヤホンに送信したり、Bluetoothオーディオコーデックアンブとしてデータを受信したりすることができます。

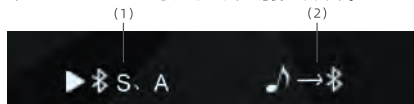
3、AP80 PRO—XはBluetoothターンテーブルとして使用できます。AP80 PRO—X Bluetoothをスマホと接続した後、Type—Cポートで、DAC AMP（例えば、DH805）に接続できます。

備考：LDAC 96kHzとUAT 192kHzを使用するとき、最適距離は1 - 4以内になります。

4、Bluetoothイヤホン、Bluetoothスピーカーなどのデバイスと接続時、「S」がでると、SBC送信プロトコルが使用されています、「A」ならAPTプロトコルで、「」ならLDACプロトコルです。

備考：Bluetoothの「高品質」設定で送信プロトコルを変えてから、それを有

効にするためにAP80 PRO—Xをリスタートする必要があります。



5、その同時に、Bluetoothイヤホン・スピーカーがAPT - X・LDACに対応できるかどうかを確認してください。対応できない場合は「AAC / SBC」を選んでください。

四、USB DAC機能

AP80 PRO—Xはデジタルターンテーブルとして

というのは、AP80 PRO—Xが、本体のType - Cをデコードに接続した後、対応できるデバイスが自動的に識別されると同時に、DH80などのようなデーター信号を送信するという意味です。専門のオーディオプレーヤーはスマホ / iPadなどのデバイスと比べて、出力信号がより純粋で、サウンドもよりクリアで、飽和度も高いです。

五、歩数計

1、AP80 PRO—Xは歩数計センサーを搭載し、センサーはバックグラウンドで実行されます。「歩数計」をクリックする

と、データをリアルタイムで検索できます。

2、歩数計は過去の運動記録をチェックすることをサポートします。左上のアイコンをクリックするなら検索できます。

六、ユーザーマニュアル

1、Androidスマホのユーザーガイド

(1) OTGケーブルを通じて、androidスマホに接続します。

(2) スマホの「USBデバッグモード」を付けて、「OTG」の選択があったら、それを付けましょう。

(3) もしスマホに付属の音楽プレーヤーは、AP80 PRO—Xの使用中に不安定になるなら、最新バージョンのHiby音楽プレーヤーをインストールし、「設定」で「Hiby専用USB出力」をオンにすることをお勧めします。

2、iPhoneとiPadのユーザーガイド

(1) HidizsにカスタマイズされたType-cデータケーブルを介して新しいiPadに接続した後で使用できます。ドライバーは必要ありません。

(2) IOSシステムに対応する場合は、お客さんはAppleカメラコンポーネント機能を備えたLightning to Type-Cケーブル

を別途購入してください。

3、Windowsシステムコンピュータのユーザーガイド:

(1) AP80 PRO—Xの「システム設定」 - 「USBモード」 - 「ストレージ」を順にクリックしたから、USBケーブルを利用して、AP80 PRO—Xをコンピュータに接続します。それで、AP80 PRO—X中のTFカードがストレージ内容が読み取られます。

(2) 「USBモード」を「オーディオ」に設定するとき、USBケーブルでAP80 PRO—Xをコンピュータに接続したから、AP80 PRO—Xは外付けのサウンドカードとして使用されません。PC端末の設定: 「コントロールセンター」 - 「サウンド」 - 「再生」—この製品 (AP80 PRO—X) を既定のデバイスとして選んでください。

(Windowsユーザーは<http://www.hidizs.com>、www.hidizs.net でオーディオドライバーをダウンロードしてください。)

4、Mac OSシステムのコンピュータユーザーガイド

(1) USBケーブルでMac OSコンピュータに接続します。

(2) PC設定: 「システム環境設定」—「サウンド」 - この選択の中にAP80 PRO—Xを既定のデバイスとして選びましょう。

七、ファームウェア・アップデート

ファームウェアアップデート中、誤操作のためにデバイスがうまく動作しないのをご注意ください。

ですから、アップデート前に以下の説明を詳しく読んでください。

アップデート中電源を切つてしないで、また、バッテリーの電力は30%以上であることを確認してください。

操作説明: AP80 PRO—Xのアップデートファイル「アップデート .up t」をFAT32中のTFカードルートディレクトリにコピーしており、TFカードをAP80 PRO—Xに挿入した後、「システム設定」—「ファームウェアアップデート」—ヒントが出て: 「確定」をクリックしてください。

ファームウェアアップデートをダウンロードする:

<http://www.hidizs.com> または <http://www.hidizs.net>

八、バッテリー寿命と充電

ディープ待機機能: 「システム設定」—「待機する」を付けてください

(より良い使用体験のために、ディープ待機機能はデフォル

トでオンにします。)

1、AP80 PRO—Xのバッテリー容量はどれくらいですか。バッテリー寿命はどれくらいですか。

—AP80 PRO—Xは800mAh3.7V リチウムポリマー電池を採用します。一般的には、再生持続時間は8 - 13hくらいで、ディープ待機時間は50日までに達します。

2、AP80 PRO—Xの充電方法はいくつありますか。

AP80 PRO—XはType—Cポートを採用し、プラグが両面挿入可能で、便利な充電体験をサポートします。

①アダプターで充電します(一つの注意点がります: 充電器の出力規格は5V / 2Aです。急速充電に対応できません。万が一、電圧が高すぎるか急速充電機能がある充電器を使うなら、製品が壊れるかもしれません。

②データケーブルをコンピューターのUSBポートに接続して充電します; 安全電流の制限で充電時間は長くなります。

③出力5V / 2Aのモバイルバッテリーで充電してください。

3、100%まで充電されることを何時間かかります。

DC5V / 2Aアダプターで充電するなら、AP80 PRO—Xは低電力から100%電力まで約1.5時間かかります。

4、AP80 PRO—Xを充電しながら、使えますか。

AP80 PRO—Xは専門の電源管理ICが採用されたので、製品が安全に使うことを保証します。

①充電しながら使ってもよく、体と製品に損害を与えられません。

②充電中、AP80 PRO—X本体の温度が少し上昇しますが、これは正常です。

③充電中製品を使ったら充電時間を延ばし可能で、AP80 PRO—Xを使用しない時に充電することをお勧めします。

5、AP80 PRO—Xが見せる電力はリアルタイム性がありますか。

AP80 PRO—X内部にはクーロンカウンターを搭載し、リアルタイムの電力が表しできます。

6、デコードエラーが発生した場合、AP80 PRO—Xがその曲を自動的にスキップします。

7、充電アダプターの電圧が高すぎるなら製品を壊す可能性がありますので、適応する充電器を選択してください、DC5V / 2Aのをお勧めします。

九、注意事項

1、システムが故障する場合、電源キーを10秒押し、強制終了します。

2、システムが異常になる場合、「システム設定」 - 「工場出荷時の設定を復元」を選んでください。

3、USBデコードする場合、AP80 PRO—X付属のUSB Type—Cケーブルをお勧めします。

4、初めてAP80 PRO—Xを使うとき、プレーヤーに入るとデータベースをスキャンするヒントが出てきます。

* 線材をぐんと引っ張らないでください。線材が変形、破断になる可能で、USBポートも壊れるかもしれません。

* ポートが接触不良にならないために、イヤホンケーブルを水平に抜き出すか挿入するかを確認してください。

* 製品を水、火、強い磁場や子供たちから遠ざけてください。

* 個人安全のために、危険な環境での使用を避けてください。

* 長時間使用しない場合は、イヤホン再生デバイスから抜き取ってください。

* 聴覚を保護するために、適切な範囲に音量を調整してください。以下のを参考までに。

OSHA 条例 1910.95・dB: デシベル・h: 時間

90dB	92dB	95dB	97dB	100dB	102dB	105dB	110dB	115dB
8h	6h	4h	3h	2h	1.5h	1h	0.5h	0.25h

十、保証アイテム

1、購入日以降、本体保証期間は12ヶ月、線材のは6ヶ月です。

2、修理する際には、有効的な領収書または証票を提出必要があります。

3、購入日から七日以内、製品が初期不良で、オリジナルの包装及び付属品を完全で損傷のない状態に保ちできたなら、返品交換サービスが提供できます。

4、購入日から8～15日まで、交換サービスだけ提供できません。

5、保証期間終了後、弊社は実際の状況により修理代と部品の交換費用を請求させていただきます。

を担当お願いいたします。弊社は交換品を無料でお客さんにお送りいたします。

次の条件は保証の対象外です

a、許可なく製品を分解または修理します。

b、当社および正規販売代理店が授権のない販売している製品。

c、水との接触、落下、衝撃などによる故障。

d、自然災害による損害。

e、当社以外の損害。

f、有効な保障材料を提出できません。

十一、テクニクサポートとアフターサービス

1、詳細情報とオンライン通信のために、Hidizsの公式 Weibo、Facebook、Instagram、Twitter、TikTok、Head-fi フィーラム、QQ グループ（33504015）やBaidu Postをご利用いただけます。

2、アフターサービスのために、公式サイト「お問い合わせ」で必要な情報を入力していただけます。

3、公式アフターサービスアドレス: hello@hidizs.net

4、ビジネスアドレス: hidizs@hidizs.com

FCC Statement

This device complies with part 15 of the FCC rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

NOTE: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

The device has been evaluated to meet general RF exposure requirement. The device can be used in portable exposure condition without restriction.